

絵本作家・鳥の巣研究家 鈴木まもるさん

かこさとしさんの絵本と鳥の巣のふしぎ

絵本作家かこさとしさんが、2018年5月2日に92歳で逝去されました。
亡くなる直前まで手がけていた最後の絵本が『みずとはなんじゃ?』(小峰書店)でした。
かこさんからその完成を託され絵を描いたのは、鳥の巣研究でも有名な絵本作家の鈴木まもるさん。
鈴木さんの持参された鳥の巣の実物や映像などを見ながら、知識や情報が氾濫した今の世の中を
どう生きるか、といったことを鳥の巣を通して考え、鈴木さんの絵本づくりへの思いを伺います。

2019.
2.10 (日)13:00~15:00

パルトピア山口2F 第一会議室
山口市神田町 1-80 TEL 083-923-6088

みずとはなんじゃ?

かこさとし・作
鈴木まもる・絵



対 象：子どもの読書ボランティア、子どもの読書に関心のある大人等
※大人対象の勉強会です。お子様の入室はお断りします。
定 員：30名(要予約・先着順)
参加費：500円(当日1,000円)
申込先：こどもと本ジョイントネット21・山口 山口ベースキャンプ
090-3636-2617(山口)、yamaf123@c-able.ne.jp ※必ず返信します。
090-2008-9467(山本)

【鈴木まもる】画家／絵本作家／鳥の巣研究家。1952年 東京生まれ。東京藝術大学工芸科中退。1980年に絵本『ぼくの大きな木』(偕成社・鶴見正夫/文)で絵本作家としてデビュー。1995年『黒ねこサンゴロウ』シリーズ(偕成社・竹下文子/文)で赤い鳥さし絵賞、2006年『ぼくの鳥の巣絵日記』(偕成社)で講談社出版文化賞絵本賞、2014年『ニワシダのひみつ ～庭師鳥は芸術家』(岩崎書店)で産経児童出版文化賞JR賞を受賞。絵本・童話のイラストは、これまでに150冊近い。その他、教科書、ポスター、カレンダーなどの仕事がある。1986年に伊豆半島に転居後、野山で見つけた鳥の巣の造形的魅力にとりつかれ、独学で巣の研究と収集を始める。以来、収集した巣の数はおよそ230種、550個以上。1998年から全国各地で鳥の巣と絵画の展覧会を開催している。